

No. (57) 平成30年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業成果報告書

|             |  |                             |                  |
|-------------|--|-----------------------------|------------------|
| 事業名称        | 北大阪ミュージアム地域連携推進事業  |                             |                  |
| 実行委員会       | 北大阪ミュージアム・ネットワーク   |                             |                  |
| 中核館         | 吹田市立博物館  |                             |                  |
|             | 住所   | 〒564-0001 大阪府吹田市岸部北4-10-1   |                  |
|             | TEL  | 06-6338-5500                | FAX 06-6338-9886 |
|             | ホームページ   | http://www.suita.ed.jp/hak/ |                  |
| 構成団体        | 北大阪の能勢町・豊能町・川西市・池田市・箕面市・豊中市・吹田市・摂津市・茨木市・高槻市・島本町に所在する56のミュージアム  |                             |                  |
| 事業開始時点の課題分析 | <p>吹田市立博物館では市民参画を使命の一つとし、市民や地域と連携をはかっていくことを運営目標としている。その地域連携事業の柱となるものが同館が会長館、事務局館をつとめる北大阪を中心とする8市3町（能勢町・豊能町・川西市・池田市・箕面市・豊中市・吹田市・摂津市・茨木市・高槻市・島本町）に所在するさまざまなミュージアムが穏やかな連携を結んだ北大阪ミュージアム・ネットワークでの連携事業である。北大阪ミュージアム・ネットワークは昨年よりさらに2館増え、56のミュージアムが連携するネットワークであるが、館種や財政規模、運営スタイルは多様であり、財政的な裏付けをもたないため、ネットワークの円滑な事業展開がむずかしい現状である。北大阪の主要館である吹田市立博物館がネットワークの連携強化を積極的にリードし、地域の住民や団体、企業等の参画を得ながら北大阪ミュージアム・ネットワークの活動を充実させ、その目的である北大阪の地域文化資源、とりわけ同地域と関係深い2020年に開催50年を迎える大阪万博に関する情報を整備、活用し、公開発信していくことが必要である。</p>   |                             |                  |
| 事業目的        | <p>本事業の主とする目的は、大阪万博の回顧と歴史的検証を開催地地元の北大阪から行うことである。スポーツと文化の祭典であるオリンピックが2020年に東京で開催される。前回1964年に行われた東京オリンピックに対し、大阪では5年後の1970年に同じく国家的プロジェクトである日本万国博覧会が開催された。2020年はこの日本万国博覧会から50年を迎える節目の年であり、さらには2025年に大阪への万国博覧会誘致の機運が高まっている。</p> <p>北大阪のさまざまな地域文化資源の中でも、とりわけ大阪万博に関連する情報を新たに発掘、整備、公開し、その魅力を発信し、万博経験者だけでなく未体験である若い世代にも万博情報を広く発信することで、その認識と理解を高め、その価値を深めていく。</p> <p>また、吹田市立博物館を中核とする北大阪ミュージアム・ネットワークの各館がネットワークのさらなる充実と連携の強化をはかり、地域の市民団体、博物館ボランティア、大学生、観光協会、ネットワーク館が所在する沿線の電鉄会社等と共働しながら北大阪の多様なミュージアムを広く周知し、地域の文化拠点としての地域ミュージアムの役割を示す。</p>  |                             |                  |
| 事業概要        | <p>北大阪ミュージアム・ネットワークの各館が大阪万博の開催跡地である千里の万博記念公園内の国立民族学博物館にて一同に会し、アウトリーチ活動としてのミュージアムメッセを開催し、別途シンポジウムを実施した。ミュージアムメッセは以下の3つの事業から構成した。第1の展示ブースでは各ミュージアムと市民団体、博物館ボランティア、大学生、観光協会などが博物館活動や地域文化資源の魅力を紹介するパネルやポスターを掲示し、チラシ・案内リーフレット・出版物を配布し、各館独自の特徴的な資料を展示するほか、映像等を放映、博物館の業務の一端がわかる体験型ワークショップを開催した。さらには各館が所蔵する大阪万博関連の資料、映像を持ち込み合同エキシビションを行い、来場者からも大阪万博に関する資料、写真、当時の情報提供を受け、情報を相互から発信して、情報集積をはかった。第2はステージにおいてミュージアムの専門分野に関わる民族芸能や地域の民俗芸能を上演する文化芸術イベントを開催した。第3は万博記念公園内に残る太陽の塔、EXPO'70パビリオンなどの大阪万博の遺産についてレクチャーと現地を解説付きでめぐる日本万国博覧会遺産ツアーを実施した。</p> <p>シンポジウムは大阪万博をテーマにネットワーク構成館員を中心として大阪万博までの博覧会の歴史と展開について議論、検証した。</p> |                             |                  |

|                            |   |
|----------------------------|---|
| <p>実施項目<br/>・<br/>実施体系</p> | <p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</li> <li>□イ ユニークベニユーの促進</li> <li>□ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</li> <li>■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</li> </ul> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</li> <li>□イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</li> <li>■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</li> <li>□エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</li> </ul> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</li> <li>□イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</li> </ul>   |
| <p>実施後の<br/>成果・効果等</p>     | <p>本事業の成果は、北大阪全域におよぶ50以上のミュージアムが一堂に会し、博物館ボランティア、大学生、観光協会、市民団体等との共働による広域連携を果たし、ミュージアムや地域文化資源の情報を発信するアウトリーチ活動であるミュージアムメッセや当該地域の代表的地域資源である大阪万博を検証するシンポジウムをいずれも多様な対象者向けに開催したことである。</p> <p>メッセには北大阪を中心に広く近畿圏から5,500名を超す入場者を得ることができ、北大阪地域のさまざまなミュージアムの存在とその活動や特徴的なコレクション、地域の民俗芸能、ミュージアムの活動に関連する民族芸能など、多様な地域文化資源を一挙に公開発信するとともに、特に北大阪に残る大阪万博に関する資料や映像を89点公開発信し、見学者からもエピソード、写真などの情報を入手、集積することができた。9割近い参加者からよかったという高評価を得ることができ、北大阪のミュージアムが一堂に会することによるミュージアムや地域の文化資源の多様さを理解できた、貴重な万博資料がみれてよかったといった多くの好意的な感想を得られた。</p> <p>また、シンポジウムについては、大阪府を中心に近畿一円、愛知、大分からも150名が参加し、9割以上からよかったという高評価を得ることができた。アンケートには1970年の大阪万博にまでの博覧会の歴史がよくわかった。さまざまな角度から万博が理解できた。という好意的なものも多く、大阪万博を中心とする博覧会を周知し、回顧と展望の一端を担うことができた。</p> <p>さらに北大阪ミュージアム・ネットワークのミュージアム連携が一層強化され今後の各館の事業展開や北大阪の広域連携の核がさらに強化され、今後の活動に資する内容となった。</p> |

**【事業実績】**

国立民族学博物館を会場とした北大阪ミュージアムメッセ及び関西大学梅田キャンパスにて北大阪ミュージアム・ネットワークシンポジウムの2つの事業を実施した。

**【1】北大阪ミュージアムメッセ**

北大阪ミュージアム・ネットワーク加盟の各館がアウトリーチ活動として博物館ボランティア、大学生、地域の観光協会、地域の市民団体等と共働し、ミュージアム、地域文化資源の紹介、体験型ワークショップ、各館が所蔵する大阪万博関連の資料、映像を展示する合同エキシビション、地域の民俗芸能や館活動に関連する民族芸能の披露、日本万国博覧会遺産ツアーを開催した。



展示ブース



合同エキシビション



民俗芸能上演



日本万国博覧会遺産ツアー

成果物

- ・北大阪ミュージアムメッセ合同エキシビションパンフレット
- ・北大阪ミュージアム・ネットワーク紹介リーフレット

【2】北大阪ミュージアム・ネットワークシンポジウム

「大阪万博」をテーマに1970年大阪万博に至る博覧会の歴史についてさまざまな視点から議論、検証した。

(1)参加者数

- 北大阪ミュージアムメッセ 5,527名
- 北大阪ミュージアム・ネットワークシンポジウム 150名



シンポジウム

(2)マスコミでの報道結果

- 産経新聞 (11月15日夕刊)
- 大阪日々新聞 (11月16日)
- 大阪日々新聞 (11月18日)

(3)成果および今後の課題

北大阪ミュージアムメッセにおいては、北大阪を中心に広域から5,500名を超す来場者があり、約9割近くが北大阪にあるミュージアムや地域文化資源の数の多さや多様性がわかる有意義な催しである。万博の資料がみれてよかったとの感想が寄せられた。また、見学者からもエピソード、写真などの情報を入手、集積することができた。

シンポジウムにおいては、9割以上からよかったという高評価を得ることができ、1970年の大阪万博にまでの博覧会の歴史がよくわかった。さまざまな角度から万博が理解できた。という好意的な意見を多く得ることができ、大阪万博を中心とする博覧会を周知し、回顧と展望の一端を担うことができた。

今後の課題としては、2025年万博の機運をより高めるために若者層への事業アピールが必要であるとともに、自主財源でのミュージアムと地域文化資源を情報発信していく創意工夫が必要である。

